

令和3年度第2回富津市みらい構想会議 会議録

1 会議の名称	令和3年度第2回富津市みらい構想会議
2 開催日時	令和3年10月6日(水) 午後1時30分～午後3時15分
3 開催場所	富津市役所2階 第3委員会室
4 審議等事項	1 富津市みらい構想(素案)について
5 出席者名	富津市みらい構想会議委員(14名) 飯田 裕美、今井 常夫、渡邊 浩、鈴木 著代、橋本 茂、 森田 房江、山本 眞介、吉田 あけみ、森田 貴文、 高橋 晴樹、島 朗、小川 喜之、渡邊 文子、平野 寛明 事務局(10名) 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、 総務部長 中山 正之、総務部参与 石川 富博、 総務部次長 市原 岳人、企画課長 阿部 淳一郎、 企画課課長補佐 田内 友臣、企画課主任主事 牧野 圭吾 企画課主任主事 野尻 剛史、企画課主任主事 田澤 佳美
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	4人(定員 5人)
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

令和3年度第2回富津市みらい構想会議 会議録

発言者	発言内容
事務局	<p>委員の皆様方におかれましては、本日はご多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日、会議の進行を務めさせていただきます、企画課の田内と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>開会に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>まず、本日机上に配布しました「会議次第」、「席次表」、「委員名簿」、委員名簿につきましては、後程ご報告させていただきますが、9月1日に委員の変更がございましたので、変更後の委員名簿を配布させていただいております。また、事前に送付させていただきました、「令和3年度第2回富津市みらい構想会議について」、「富津市みらい構想素案」、以上が本日の会議資料でございます。資料はお揃いでしょうか。</p> <p>1 開会</p>
事務局	<p>それでは、ただ今から、令和3年度第2回富津市みらい構想会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、本日の委員の出席状況を報告させていただきます。15名の委員のうち、出席委員は14名でございます。</p> <p>従いまして、富津市みらい構想会議設置要綱第6条第2項の規定により、半数以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>続きまして、会議の公開についてですが、本日4名の傍聴者がおりますことをご報告させていただきます。</p> <p>また、会議録作成のため、録音させていただきますので、ご了承願ひます。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、質疑応答の際は、着座にてマイクをご使用いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、本日は、委員の皆様の前にマイクを設置しております。お手数ですが、ご発言の際は、緑色のボタンを押してからご発言をお願いいたします。ご発言が終わりましたら、再度ボタンを押していただきますようお願いいたします。</p> <p>続きまして、山本委員におかれましては、今回が初めての会議の参加となりますので、恐れ入りますが、一言ご挨拶をいただきたいと存じます。よろしくお願ひいたします。</p>
山本委員	<p>マザー牧場の山本と申します。前は都合が悪くて参加できませんでしたが、今日から出席させていただきます。観光事業者の立場から、なにかお役に立てることが考えられれば良いなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、委員の変更について、ご報告がございました。</p>

これまで、日東交通株式会社の加藤正之様に委員に就いていただいていたところですが、同社の人事異動に伴いまして、引き続き、委員を務めることが困難な状況となりましたことから、同社運輸部長の高橋晴樹様に9月1日付けで委員にご就任いただきましたので、ご報告させていただきます。

恐れ入りますが、高橋委員から一言ご挨拶をいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

高橋委員

日東交通の高橋と申します。9月1日付けで就任させていただきましたので、公共交通会社の立場から、ご出席させていただきますので、今後ともよろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございました。

2 市長挨拶

事務局

続きまして、開会に当たり、高橋市長からご挨拶を申し上げます。

高橋市長

あらためまして、皆様こんにちは。

ただ今、担当の方から発言は着座にてと、お願いをさせていただきましたが、会議冒頭の挨拶でございますので、起立にて失礼します。

あらためまして、公私ともにご多忙の中、委員の皆様方には令和3年度第2回富津市みらい構想会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、山本委員と高橋委員におかれましては、今回初めての会議となりますが、それぞれの立場で日頃の生活やお仕事の中で感じていることなど、忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本日の会議であります、「富津市みらい構想(素案)について」を議題とさせていただきます。

当初のスケジュールでは、本日の会議におきまして、地域別も含めた構想の素案及び計画体系図の素案を提示することとなっておりますが、大変申し訳ございませんが、策定作業が現在遅れており、本日、全体の構想のみの提示とさせていただきました。

現時点では、当初のスケジュールどおり令和4年4月1日施行を目指し、策定作業を進めておりますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

詳細につきましては、後ほど事務局から説明させていただきますが、今回の素案におきまして、市が目指す将来像、その実現に向けた施策のテーマと基本方針などを提示しております。

委員の皆様におかれましては、活発なご議論、そして、ご意見等をいただきますようお願い申し上げます。会議冒頭の挨拶に代えさせていただきます。

よろしく願いいたします。

3 会長挨拶

事務局

続きまして、今井会長からご挨拶をお願いいたします。

今井会長

皆さんこんにちは。

本日はよろしくをお願いいたします。

さて、私事ですが、緊急事態宣言が明けまして、先週の土曜日にみなと幼稚園の運動会を実施させていただきました。ただし、時間差で学年ごとの実施で、保護者も2名というような形での苦しい実施でした。

現在でも子どもたちは、お昼を食べるときに黙食というような状況ですけれども、それでも子どもたちは元気に過ごしております。

今回、素案が出ましたけれども、私が勤めている子どもたち、私にとっては孫のような子どもたちですけれども、その子たちが、10年後、20年後、この富津市を担っていくんだなと思うと、この会議は大変重要な会議になってくるのかと思います。

その中で、今回素案ができたということで、ここで話し合っていたくわけですが、各分野から活発なご意見をお願いしたいと思います。

今日はよろしくをお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。

それではここからは、富津市みらい構想会議設置要綱第6条第1項の規定によりまして、会長に議長となつていただき、進行をよろしくをお願いしたいと存じます。

今井会長よろしくをお願いいたします。

今井会長

それでは、始めに本日の議事録署名人を指名させていただきます。

鈴木委員と橋本委員をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

4 議題

富津市みらい構想（素案）について

今井会長

それでは、議題に入ります。

「富津市みらい構想（素案）」について、議題といたします。

事務局の説明を求めます。

事務局

企画課長の阿部でございます。よろしくをお願いいたします。

私から、議題の「富津市みらい構想（素案）」についてご説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

まず、今回お示しいたします素案は、市全体の構想部分となっております。本日の富津市みらい構想会議におきまして、ご意見等をいただき、市全体の構想部分を固めてまいりたいと考えております。その後、市全体の構想を踏まえ、地域別の構想の案を作成してまいります。

それでは、「富津市みらい構想（素案）」の冊子を2枚めくっていただき、目次をご覧ください。

まず、全体の構成について、ご説明申し上げます。

始めに、序章を「人口の現状と市民の声」とし、市の現状と市民の考えを記載しております。

次に、第1章を「富津市みらい構想とは」とし、「策定目的」「位置づけ、期間」「内容」を記載しております。

次に、第2章を「市が目指す将来像」とし、市が目指す将来像を記載しております。

次に、第3章を「市が目指す将来像の実現に向けて」とし、「持続可能は行政経営」と「施策のテーマと基本方針」を記載しております。

ここまでの、市全体の構想についての構成となります。

第4章以降には、今後、地域別の将来像等について記載してまいります。

続きまして、各章の内容について、ご説明申し上げます。

始めに、序章「人口の現状と市民の声」について、ご説明申し上げます。

5ページをお開きください。

1として、「人口の現状」について、記載しております。

現在、市には多くの課題がありますが、人口減少は、様々な分野に影響を与えるものであり、これまでも最大の課題としてきたことから、市の現状を示すものとして、人口の現状を記載しております。

令和2年国勢調査の速報値、人口減少が及ぼす影響、これまでの取組、人口減少の要因等を記載するとともに、今後も引き続き、「人口減少の抑制」を最大の課題として位置付け、その解決に向けて取り組んでいくことが必要な状況にある旨を記載しております。

また、6ページから8ページまでは、関連するグラフ等を載せております。

9ページをお開きください。

2として、「市民の声」について、記載しております。

ここでは、市民の皆さんが市の現状や将来について、どのように考えているのかを示すため、本年5月に実施した市民アンケート調査を活用し、14ページまで、8つの項目に係るアンケート結果を、グラフ等を用いて記載しております。

9ページには「富津市の人口減少についての考え」、10ページには「今後どのようなまちづくりを目指すべきか」と「今後どのような施設が必要か」、11ページには「老後にどのような生きがいを求めたいか」と「富津市は子育てしにくいところだと思うか」、12ページには「富津市に誇りや愛着を持っているか」、13ページには「これからも富津市に住み続けたいと思うか」、14ページには「富津市での生活の満足度」について、記載しております。

次に、第1章「富津市みらい構想とは」について、ご説明申し上げます。

17ページをお開きください。

ここでは、みらい構想の概要として、「策定目的」「位置付け・期間」「内容」について、記載しております。

1の策定目的は、市が目指す将来像を市民の皆さんに分かりやすく示すとともに共有し、将来像の実現に向けて市民の皆さんとともに施策を着実に実行するため、みらい構想を策定するものとしております。

2の位置づけ、期間は、市における最上位の構想、2022年度から2031年度までの10年間としております。

3の内容は、市が目指す将来像を定めるとともに、その実現に向けて取り組む施策のテーマと基本方針を定めるものとしております。

次に、第2章「市が目指す将来像」について、ご説明申し上げます。

21ページをお開きください。

ここでは、「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」を、市が目指す将来像として記載しております。

将来像につきましても、市の将来を想うとき、最も大切なことは、「富津市が市民の皆さんにとって誇りを持って暮らせるまち、愛着を持って暮らせるまち」であることと考え、そんなまちを、今を生きる私たちが実現し、これから生まれ育つ子どもたちに自信を持って引き継いでいくことで、市は、将来に渡り誰もが幸せを感じられるまちとなり、また、「訪れたいまち」「住みたいまち」など、関わりを持ちたいまちとして、多くの人たちに選んでもらうことにもつながっていくと考えることから、「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」としております。

また、ページ下には、イメージ図を載せてあります。

次に、第3章「市が目指す将来像の実現に向けて」について、ご説明申し上げます。

25ページをお開きください。

1として、「持続可能な行政経営」について、記載しております。

市が目指す将来像を実現するためには、まずは、行政がしっかりとした土台を築くことが重要であると考えことから、その土台を「持続可能な行政経営」を実現することにより築いていくものとしております。

「(1) 持続可能な行政経営とは」についてですが、市は、限られた経営資源である「ヒト・モノ・カネ」を活用し、将来に渡り安定した市民サービスを提供していく必要があります。将来像を実現するため、身の丈に合った、そして次世代へ自信を持ってバトンを渡せる行政経営を実現していくものとしております。

26ページをお開きください。

「(2) 持続可能な行政経営の実現に向けて」についてですが、「持続可能な行政経営」を実現していくに当たり、経営資源である「ヒト・モノ・カネ」について強固な基盤を築くため、「富津市職員定員適正化計画」「富津市公共施設等総合管理計画」「富津市中期財政計画」の3つの計画を着実に実行していくものとしております。

27ページをご覧ください。

2として、「施策のテーマと基本方針」について、記載しております。

ここでは、市が目指す将来像の実現に向けて、その柱となる施策のテーマと基本方針を記載しております。

施策のテーマを8つとし、その下に、それぞれ基本方針を記載しております。

まず、テーマ1を「安全、安心なまち」としております。

防災対策として、近年、自然災害が頻発化・激甚化しつつあることから、自然災害が発生しても「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を持ったまちづくり、また、防犯対策や交通安全対策にも取り組み、市民の皆さんが安全・安心に暮らせるまちづくりをしていくものとしております。

基本方針として、防災・減災対策として、「富津市国土強靱化地域計画」を着実に推進していくこと、防犯・交通安全対策として、関係機関等との連携による広報啓発活動を推進していくとともに、対策に必要な活動への支援をしていくことを挙げております。

次に、テーマ2を「子育てしやすいまち」としております。

妊娠期から子育て期を通して、切れ目のない支援を行い、誰もが安心して子育てができ、子育てが喜びや生きがいとして感じられる、そして次代を担う子どもたちが健やかに生まれ育ち、子どもたちの笑顔があふれるまちづくりをしていくものとしております。

基本方針として、地域交流センター「カナリエ」を多世代間交流の場として多くの方に利用してもらうことでコミュニティの活性化を図ること。また併せて、病後児保育を推進していくこと、病児保育施設の設置を推進していくことなどを挙げております。

28 ページをお開きください。

次に、テーマ3を「次代を担う子どもたちを育むまち」としております。

児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育環境を整備し、知・徳・体の調和がとれた、きめ細やかな教育の推進、また、心身共に健康で確かな学力を身につけた、富津市を愛し、富津市の未来を託せる児童・生徒の育成をしていくものとしております。

基本方針として、小中学校において ICT を活用した教育環境を整備するとともに、論理的思考力を高めるプログラミング教育や英語教育の充実を図ること、基礎学力と学習意欲の向上を図るため、指導補助教員を配置し、放課後学習教室を実施していくこと、公立図書館施設と連携を図り、読書環境の整備に努めるとともに、学校においても読解力・思考力・表現力を高めるために、読書活動を推進していくことなどを挙げております。

次に、テーマ4を「健幸に暮らせるまち」としております。

市民の皆さんが生涯を通じて、自分らしく健康的な社会生活を送れることを目指し、乳幼児期から高齢期までライフステージに応じた健康増進の取組を推進することで、いつまでも住み慣れた地域で、心もからだも元気に、いきいきと暮らせるまちづくりをしていくものとしております。

基本方針として、生活習慣病の発症予防や重症化予防への取組を推進し、健康寿命の延伸を図ること、地域住民に必要な不可欠な君津中央病院大佐和分院の存続に向けて取り組んでいくことなどを挙げております。

29 ページをご覧ください。

次に、テーマ5を「福祉の充実したまち」としております。

誰もが安心して暮らせる環境づくりに取り組み、住み慣れた地域で、いきいきと暮らせるまちづくりをしていくものとしております。

基本方針として、介護予防事業や特定健診・各種検診・健康相談などの実施により、市民の健康づくりを支援していくこと、障がいのある方が、保健・医療・福祉などの総合的な連携のもとに、地域で自立した生活を送れるよう支援するための施策を一体的に推進していくことなどを挙げております。

次に、テーマ6を「産業が元気なまち」としております。

市内の産業を支援し、事業者が安心して事業を営める環境を整備していくこと、そして、市内の産業が元気なまちづくり、来訪者でにぎわうまちづくりをしていくものとしております。

基本方針として、農業、漁業、商工業、観光業の活性化を図るため、市の特産品などのPR、販路の拡大、来訪者の増加につなげる拠点として、集客施設の設置を推進していくこと、観光業の振興を図るため、市の豊かな観光資源を最大限に活用し、来訪者の増加に取り組むとともに、市の魅力や観光情報の発信力を高めていくことなどを挙げております。

30 ページをお開きください。

次に、テーマ7を「快適で便利なまち」としております。

交通便利性や生活環境の向上に取り組み、誰もが住みやすく、住み続けたいと思えるまちづくりをしていくとともに、環境意識を高め、豊かな自然を将来に引き継ぐための取組をしていくものとしております。

基本方針として、幹線道路を整備し、交通ネットワークを強化することで、市民生活の利便性を向上させていくこと、公共交通を必要とする人のために、民間事業者と連携し、移動手段の確保を図ること、市民の文化教養の向上を目指し、出会い・学び・憩いの場として、幅広い世代の人が気軽に立ち寄れる図書施設の設置を推進していくこと、環境センターを見直し、再資源化などごみ処理の円滑化を図ること、環境に配慮したまちづくりを目指し、再生可能エネルギーの利用促進を図ること、また、低公害車を公用車に導入していくことなどを挙げております。

次に、テーマ8を「移住・定住を支援するまち」としております。

富津市に移住を検討されている人たちへの支援を強化し、移住・定住の地として選ばれる取組をしていくものとしております。

基本方針として、移住を検討されている人たちに対し、それぞれのニーズに応えられる移住相談体制を整備していくこと、富津市での生活を実感してもらうため、移住体験ができる仕組みづくりをしていくことなどを挙げております。

以上で、「富津市みらい構想（素案）」についての説明を終わります。

最後に、今後のスケジュールについて申し上げます。

本日の会議においてご意見等を聴取させていただき、その後、地域別の将来像を含めた案を作成し、12月に議会及びみらい構想会議で説明・意見聴取、1月にパブリックコメントを実施し、3月議会に議案として上程する予定です。

今井会長

先程、市長が申しあげましたとおり、現時点では、当初のスケジュールどおり、令和4年4月1日施行を目指し、策定作業を進めてまいります。

以上で、説明を終わります。

ありがとうございました。

ただ今、事務局からの説明が終わりました。

今までの説明をまとめると、市の現状や市民の声から市の将来像として、「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」をつくることを目的に行政としての心構えと8つのテーマを掲げて基本方針を定めるということになってくると思います。

そうすると、私たちが議論していく部分というのは、1つはこの将来像でこれからの富津市をつくっていくということでのよろしいかどうかということ。

それから、行政としての心構えやテーマが8つありますが、この8つで良いのか、また、他に加えるものはないのか、ということも議題になると思います。

それから、それぞれ専門的な分野の中でおいでいただいておりますので、今のことに絡めて自由にご意見をいただきながら、まとめていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは、最初に事務局の方にご質問等がありましたらお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

委員

－質問等無し－

今井会長

それでは話合いの方に入っていきたいと思っております。

それぞれご意見があると思っておりますのでよろしくをお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

橋本委員

日本製鉄の橋本です。商工系の代表としてやってまいりました。

まず、全体感に関するコメントと個別に商工系関係のコメントをしたいと思っております。

全体の将来像に関して1つありまして、基本的には市に対する話ですが、ポイントとしては市の外の方にどれだけ富津市に来てもらうかという観点で大事だと思っております。その観点での考え方が少し不足していると思っております。その見方をよろしくお願ひします。同じところに関係しますが、訪れたいまち、住みたいまち、そして選んでもらうというのは大賛成です。ただし、施策に関しては、訪れたいまちに対する施策が少ないと思っております。これは後で個別のところでお話しさせていただきます。

あと、個別には、アンケートのところ、これ自体の是非ではなくて、このデータがあるのでしたら、分類があったら良かったのかなと思いました。

例えば、会社員に対する質問なのか、事業主に対する質問なのか、主婦に対する質問なのか、学生さんに対する質問なのか、平均値としてはこれで良いと思うが、住んでいる人が会社員が多いエリアのニーズは何か、というところとしてはちょっと薄まってしまったのかなと思っています。

施策に関してですが、テーマ1のみ訪れたいまちに関係していますので、もう少し外に向けてのPRの施策が欲しいなと思いました。

テーマ1に関しては、安全安心という意味では、自然災害時のフォローを強調して厚めにして欲しいと思っています。

これは、富津市の空撮でビニールシートがまだ残っている状況を見ると、もう2年経っているのにと話になります。

これは富津市の印象としては悪い方になりますので、原因を見つけて、そういうものは富津市はすぐ解決できるよという印象を与えたいなと思います。

あとは、検討済みだと思いますが、復興ツールとして市の持ち物以外、民間の資源をもっとまわせるような仕組みにしたいなと。重機とか発電設備とか電源車とか、当時、困っていたものは、いざという時に使えるものを把握して不足しているものを捉えておく。

そして、商工系だとテーマ6産業の話です。これ、PRだと思います。

今、千葉県のアンテナショップに富津市はどれくらい提供しているのか、確認したかったというのがあります。

個人的には生海苔とか、海堡井とか、はかりめ井とかのフェアは良い試みで、バリエーションはいっぱいあるので、あれをコアエリアだけに収めておいてPRしないというのはないと思いますから、積極的にこういうものをリンクさせていったら良いのではないかと考えています。

また、富津岬などは、ドラマとかミュージックビデオ撮影などで結構使われていると思っていますので、積極的に利用してもらって、その代わりに特産物とコラボするとか、もう一歩進んだPRの仕方をやったら良いのかなと。

要するに、関東地区の富津市以外の方がここになにがあって、どんなおもしろいことがあるのか、もう少し知れると良いかなと思います。

あとは、テーマ8の移住・定住の話ですが、オール富津情報交流センターとか実際にリンクして動いているところがあると思いますので、その辺は進めていただきたいと思っています。

先程言った、外から見たときに富津市がどう見えるかというところに観点を置いた施策の進め方。市内の人達だけみれば良いという話だけじゃなく、来てもらうための施策をもう少しそういう観点を積極的にプレゼンしてもらえればと思います。

今井会長

ありがとうございました。

平野副会長

今、いくつかのテーマについて、ご意見いただきましたけれども、他にいかがでしょうか。

数点お話をさせていただきます。

まず、総論としてですが、非常にきれいに多方面にわたってまとまった形になっているのではないのかなと思いました。

ただ、逆の考え方で言うと総花的な、というような表現をせざるを得ないのかなと。

これに関しては、おそらくこれが最上位であるならば、その下に各施策のいろいろなものを来年度以降まとめていくということになるかと思えますので、そういったところで先程の橋本委員のお話も包括できれば良いのではないのかなと思っておりました。

最大の問題は人口減少だということで、それがはっきりと謳ってあるのでそれは良いのかなと思ったのですが、何か良い点を言わないと、みらい構想と言っていてひたすら人口減少なので、まず、中核たる行政組織をきちっと持続可能、作用、担保していきますということは、大切ですが、ちょっと尖らせるといえるか、未来に向かって富津市にはこういう良い点があるから、ここは伸ばしていきましょうというようなものが無いと、みらい構想としてはちょっと寂しいかなと。

身の丈に合ったという文言も入っておりますので、非常に実現可能性というところで考えておられるのだなど、根柢の考え方は非常に理解できるのですが、やはり、これから先の未来ということ踏まえると、そういった点が欲しいのかなというのが、総論としての私の意見でございます。

そして、愛着を持てるまちふつつということで、行政として我々も入って未来像をとということでございますが、私が市民活動ということで呼ばれておりますので、そういった点で言うと、持続可能な行政組織を目指していきますよ、ということとともに、この最上位の構想であるならば、市民協働でやっていくんだよと。

各テーマ、各テーマ見ますと、連携であったりとか、協働であったりという言葉がございますが、今後の富津市というのは行政だけではなくて、民間のありとあらゆる資源を活用して、あるいは、意見を入れて動いていくんだよというような基本的な考え方を入れていただいた方が良いでしょう。

これを民間が受けるかというのは別の話ですが、最上位の構想であるならば、そういった視点を一行入れていただくと、今後の施策構想の段階で、それが起点になる考え方になるのかなというような気がいたしますので、もし、まだ余裕があるようであれば、その点をご配慮いただければと思います。

そして、個別になりますが、テーマ1に関して言うと、台風のこともありましたが、市民の自主防災という考え方がこの数行見ただけでは抜けているような気がいたしました。

2年前に台風を経験したわけですから、今後は、行政に頼っただけではダメだよということを知らしめるためにも、自主防災ということをも

う一度定義付けし直して、ここに入れていくということが大切なのかなと思います。

そして、全体的に言えることですが、富津市の売りのポイントというものを移住にせよ、商売にせよ、何か入れる方法がないのかなと。

弊社の立場で言いますと、マイナス法でリスクがあったり、足りないところがあるから、それを足していくというような、これをベースとしてやってなくてはいけないことだと思うんですが、そうではなくて、売りを伸ばすというところの観点が最上位のこの構想に入れるべきなのか、あるいは、その後の個別の政策に入れるべきことなのかという考え方はあろうかとは思いますが、欲しいなと思いました。

わたくしとしては以上でございます。

今井会長

ありがとうございました。

行政経営についても加筆等も必要なのではないかとこのところもありましたけれども、他にいかがでしょうか。

今までの話合いの中では、テーマで言う子育てしやすいまちですとか、教育、あるいは、健康についてのご意見等が無いようですが、そのような形でのご意見等、もしあったら、よろしくお願ひしたいと思いますが、いかがでしょうか。

山本委員

マザー牧場の山本です。

私もいろいろ考えてみるんですが、確かに施策のテーマと基本方針は、非常に良いことが書いてありまして、やはり、定住人口を増やしていくということは、市の運営からしても必要なことだなと。

歳入を増やす観点からすれば、一つの方法として定住人口を増やすということは、非常に良いし、活気も出るだろうと。

そのためには、子育てしやすい場所を作るとか、ここに書いてあることがまさにそうなんですけれども、ただし、住民サービスを充足するということは、財源の確保が非常に必要なわけで、ヒト、モノ、カネのところ財源確保による財政基盤の強化が必要であるというのも、もちろんなんですけれども、具体的な方策は、ある程度なにか考えられているんじゃないかと思うんですが、そういうのを何かお聞かせ願ひたいなというのが一つ。

また、日本全国で見ますと、人口減少に喘^{あえ}いで非常に厳しく行政を運営されている市町村があると思います。もちろん、そういうところも、いろいろ調査されてるのではないかなと、また、そういうところの施策を参考に色々考えられているんじゃないかなと思っているんですけれども、そういう他の市町村、どんなことやっているのか私もネットで見た程度なんで、わかんないんですが、そういう事例も踏まえて、先進事例で良いものがあれば、取り入れていけば良いのかなと思っています。

以上です。

今井会長

今の意見は、今後の施策を作る段階で参考にさせていただきながら進めていただければと思いますけれども、他にいかがでしょうか。

渡邊（浩）委員

障害者総合支援協議会の渡邊です。

最上位の施策ということで、その下に福祉で言えば高齢者計画とか障害福祉計画というのがあると思うんですけど、障害者総合支援協議会も将来の障がい者が住みやすいまちというところを考えていて、今、福祉教育に力を入れていこうと検討しているところです。

今の小・中学生に障がいを理解してもらうために、車いす体験とか障がい者との交流を今後やっていこうと。

今、コロナで学校訪問したりとかはできないんですけど、それが10年後、20年後その子どもたちが、障がいに対する理解を持ってもらって、障がい者の住みやすいまちになったら良いなということで検討しているので、それが障害福祉計画の方で反映されるのかどうかかわからないんですけど、このテーマを見ると、次世代を担う子どもたちを育むまちとか、健全に暮らせるまちというところで、障がいに関するところって大事になってくると思うんです。

産業で元気なまちも、障がい者の雇用ってということも考えてもらいたいので、その辺も踏まえて、福祉計画でやっていくのか、みらい構想の方に入れていくのか、ということも考えて欲しいというのがあります。

今井会長

ありがとうございました。

鈴木委員

社会福祉協議会の鈴木です。

今、渡邊さんの方からお話がありましたとおり、福祉教育を総合支援協議会と共催という形でやらせていただいております。

私たちの方も、障がい者、高齢者、地域、全て入ってくるんですけども、これを小学校、中学校、高校、あるいは、生涯教育という意味では、高齢者まで含めて、福祉教育をどの段階で、どういう形でみなさんに福祉の種をまく、あるいは、花を咲かせるためにやっていくかということを検討しております。

一番の構想ということになりますので、先程、渡邊さんからお話があったように、どこかの時点、障害者計画なのか、福祉計画なのか、地域福祉計画なのか、計画は色々ありますので、どこの時点で入れるのかというのはいずれ細かいテーマによって変わってくると思うんですが、そのテーマを決めていく中で、これが上層計画ということであれば、今後その下の計画にも入れていただけるような、仕組み作りの一つとして、ご意見させていただけたらなと思います。

やはり、福祉教育は小学校だから終わり、中学校で終わりではなく、生涯、福祉教育というのは必要になってくると思います。

それが障がい者、高齢者、あるいは、健全者、地域みんな安心して暮らす、この富津市のまちづくりに進んでいけば良いんじゃないかなと思いますので、その辺も含めてご検討いただければありがたいと思います。

今井会長

ありがとうございました。

福祉教育ということで、将来の子どもたちにも、福祉の視点を育てていくような施策を掲げていただきたいというようなご意見がありました。

私も小学校の教員の時に、車いす体験を子どもたちと一緒にやったり、認知症を理解するということで、金谷の里の方が子どもたちに学習したいということで来ていただきました。

学校現場というのは専門者ではないので、外部の方をどういう風にコーディネートして、そこに行って学ぶのが一番良いんだけど、そういうシステムが無い。

是非、福祉教育の中でも、うまく市を通して連携ができると学校と教育というのがうまく繋がっていくと、より良い教育になっていくのかなと思います。

鈴木委員

福祉委員の話になってしまって大変恐縮ですが、今井会長からお話があったように、湊小学校は福祉教育が大変活発で、学年ごとにテーマを決めて色々とされていました。

その中で、地元の視覚障がいの方を講師にお招きしてお話していただいたことがあったんですが、講演の後に、子どもたちが必ずその方の家の前を通る時に声を掛けてくれたりとか、元気ですかとか、あるいは、ちょっと困ってそうだと、どうしたのとか声掛けをしてくれるようになったんですね。

そういうことが、このテーマの3、4、5にも関わってくると思うんですが、未来の子どもたちの自然な形でお互いに助け合えるというところにも繋がってくると思いますので、次世代を担う子ども、あるいは、福祉の充実というところに関わってくるのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

今井会長

ありがとうございました。

福祉について他にご意見ありますでしょうか。

他のテーマでも結構ですので、お願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

島委員

将棋連盟の島と申します。よろしくをお願いします。

私は4年前に世田谷区からこちらに移住してまいりまして、ちょうど家内の実家もありました関係で、あまり伺ったことのない富津市に住まわせてもらうことになりました。

一言でこちらの感想は、大変快適に暮らさせてもらってまいりまして、私自身は本当に心身ともに健康になったなと思っております。ただ、私は棋士になって40年経つんですけど、人口減少というのは、防ぎがたいこととしても、現役世代が住むには雇用であるとか、通勤状況であるとか、大変なことは多いかなと思いました。

仕事柄にもよるんですけど、去年、今年のコロナ禍で必ずしも通勤の遠さがすべてのハンデでは無くなったということ。

また、私たち棋士のような毎日出勤をしなくても済むような仕事。

そういったことを考えますと、非常に地方移住というのは、富津市に限らず、どちらかというところと推進できる流れなのかなと思っています。

自分もアンケートを拝見して思ったことは、先程、皆様もおっしゃられていた、定住者への目玉政策というのでしょうか、福祉もそうですし、医療、教育文化というのは絶対必要なのかなと思っています。

それこそ、鴨川の亀田病院じゃないですが、アンケートにもありますけど、総合病院という大きなものほどではなくても、今回のコロナでワクチンの必要性で病院の大事さがわかりましたし、それほど大きなものではないにしても、人が来ることによって雇用も生まれるので、それで現役世代にアピールできるというのではないのかなと思っています。

私の仕事から言いますと、文化的な施設がもう少しあったら良いなと思ひまして、実際、自分が近隣市の子どもたちを教える時は、例えば木更津市の子を教える時は、駅前の「みらいラボ」などを使っております。

今日、日東交通さんがおいでですけども、JRの駅前とか公共交通機関の通える場所にそういったものがあると、贅沢なものでなくていいので、そういったところに子どもたちが通えるようになると、親御さんも安心して送り出せるのかなと思います。

車だけだと、どうしても親が送っていかねばいけないということになりますので、今の若い世代はそこまで余裕がないことが多いので、ただ、富津市というのは、とても素晴らしい所だと思いますし、色々な魅力があると外から思って、痛感しております。

人柄も温かい方が多いですし、私が新参者なので、こちらでお役に立てることがそんなになんかと思うんですけど、定住されている皆様が思っている以上に、私はとても良いまちだ、良いまちだと言って家内にいつも笑われているんですけど、本当に自分の誇りを持ってこちらのお役に立てれば良いなと思っています。

取り留めなくなりましたけれども、色々な立場から、それほどお金がかからない方法で呼べると良いのかなと、雑然としておりますが、感じました。以上です。

今井会長

ありがとうございました。

移住・定住して下さった方から、ご意見というのを大事にしながら、施策を進めていきたいと思っているんですけども、今、公共交通のこともありましたけれども、そのことについてもご意見ありましたら、お願いしたいんですが、いかがでしょうか。

高橋委員

日東交通の高橋と申します。

公共交通の立場からお話しさせていただきますと、バスの利用に関しましては、目的ではないというところがありまして、目的地があることで、バスの利用につながるということもございますので、テーマ1から8ま

でありますけれども、こちらのテーマ全てが活発になることで、バスのネットワークだったり、利用者も生まれてくると考えております。

交通ネットワークの強化といたしましても、必ずしもバスでなければいけないということもございます。

利用実態に合わせて、タクシーだったり、デマンド交通により、空白地帯の足を埋めるというのもありますので、細かい話はこの大きなテーマではなくなってくるとは思いますが、コンパクトな運行であったり、各交通サービスと連携した交通網の整備が必要ではないかと考えております。

今井会長

ありがとうございました。

森田（貴）委員

富津組合の森田と言います。

先程の交通機関の話に繋がるんですが、今、富津地区の方に住んでまして、子どもが中学生なんですけど、五井の方にあるサッカーのクラブチームに通わせているんですが、富津地区からの交通の便が不便というのもありまして、学校が終わってから習い事に行くのに親が車で君津駅の方に送ってクラブに通わせている現状が結構あります。

そういう部分で、青堀駅発っていうのがなくて、どうしても君津駅からの便の方が良いので、やはりそっちの方に親が送迎をするっていう方たちが結構あったりします。

そういうところで、不便性を感じたり、他にやれる時間とかが拘束されてしまうので、そういったところが改善されると、子どもたちにも色々なことをやらせてあげられたり、環境が整うと思うので、そういうのもテーマとしてあっても良いのかなと思いました。

今井会長

ありがとうございました。

公共交通、あるいは、市民の利便性という視点からも、施策に取り入れていただきたいということでした。

他にいかがでしょうか。

私なんですけど、学校の分野を担っていると思うので、意見を言わせていただきたいと思うんですけど、テーマ3のところに「富津市を愛し、富津市の未来を託せる児童・生徒を育成する」、これは、ずっと富津市の教育委員会がテーマに掲げていて、学校教育指針の中にもあると思うんですけど、残念なことにアンケートを見ると、今まで私たちは頑張ってきたつもりなんですけど、富津市に愛着を持っているかという、20歳未満の方は、ちょっと少ないのが非常に残念なんです。

じゃあ、学校教育の中で何をすれば良いのかって考えた時に、ここに掲げてあるものっていうのは、どちらかというとナショナルスタンダードな全国的に通用する項目ではないのかなって思うんです。

その中で、「富津市を愛し、富津市の未来を託せる児童」を育成するためには、何が必要なのかっていうところを市として考えていただきたいなというところがあります。

例えば、私たちは総合的な学習の時間等で何を扱うかという富津市の自然とか、あるいは、文化とか歴史、こういうものを子どもたちと一緒に学んできました。

そういうものを色んなところで語れる子どもだったら、富津市を好きになってくれるかなって思ったんですけど、結果的にはなかなかそうはいかない。

そこが教育の難しさだと思うんですけど、そういう風に富津市を愛したり、あるいは、富津市の未来を託せる子どもに育てるためには、プログラミングとかナショナルスタンダードなもの他に富津市としてこんな教育を施策として、市長部局として、こんなことやって欲しいという風に謳っていただけるとありがたいと思います。

それから、子育てしやすいまちですけども、本当にだれもが安心して子育てができるまちというのは良いですけど、例えば、共働き子育てしやすいまちランキングなんていうのが、日経DUALかなんかであって、葛飾区が第1位になってたりするんですね。

そこで何をやっているかという、未就学児へのサービスだとか保育の質の担保みたいなものもしっかりやっている。

そうすると、この3つで安心して子育てができるって言えるのか。

もちろん下の施策の中にいっぱい出てくるとは思うんですけど、ここからは下の施策に結びつかない3つの項目になっているのかなって思うんです。

だから、もうちょっと大きな施策から、カナリエでも良いですし、色んな視点に結びつくような施策にしている方が色んな施策につながるし、市長は子育てしやすいまちっていうのがテーマとして掲げていらっしゃると思いますので、そういう意味では色んなお考えがあると思うので、それを実現できるような形でこの部分は検討した方が良いのかなと思いました。

他にいかがでしょうか。

平野副会長

皆様のお話をお伺いしております、当然、最上位のこの構想に入れるべきことと、それぞれの各分野の施策に反映させていただきたいこと色々あるかと思うんですが、1つ思ったことが、先程、市民協働について入れていただきたいということもあったんですが、やはりですね、行政はいち早く持続可能性ということを危機感を持たれて書かれたと思うんですが、民間も色々やっておりますが、民間もマンパワーのない中でやっているという中で行政と市民の連携もそうですし、例えば昔から言っている農商工の連携ですとか、先程、聞いていると、教育と福祉の連携がなきゃいけないとか、そういったそれぞれの市内の市役所とか民間を抜きにして、それぞれのセクショナリズムを介して、横の連携をしていくということのを大いに謳わないと、例えば、私も商工会の青年部で新富津漁協さんと江戸前オイスターのブランディングをやっている、なかなか苦労しているんですが、どの分野も大変だけど何かやらなければいけないけれども人もいない、というようなことは多分探せばたくさんある。

だから、それをみんなでやっていかないといけないんだよ、ということと、それを行政としてもバックアップしていくんだよ、というような大きなテーマを謳っていただけると、色々なものをこれから市民として住んでいく上で、解決をしていかなければいけないということで、色々な有為の方がここにおられるわけですが、そういった方の助け舟になるというか、色々なことを対処していくための1つの道筋として、いわゆる横の連携、セクショナリズムの廃止。

これは、役所は縦割りとよく言われているのは、民間も本当に考えないと、例えば陸と海で全然つながりがないとか、あるいは、大佐和、富津、天羽でどうなんだとか、色々あると思うんですが、それを1つの最上位のテーマとして置かれるのは良いのではないかと、皆さんのお話を伺っていて気付いたもので苦言をさせていただきました。

今井会長

ありがとうございました。

他にご意見まだおっしゃられていない方もおられると思うんですが、いかがでしょうか。

せっかく出席していただいたので、発言をしていただけたらと思うんですけど、飯田先生どうでしょうか。

飯田委員

富津保育園の飯田と申します。

よろしく願いいたします。

テーマ2の「子育てしやすいまち」というところでなんですが、今、お母様世代、20代前半から30代、40代のお母様方、子育てをしている中で、遅くまでお仕事をされているお母様たちが大勢いらっしゃったり、あとは、おばあさん、おじいさんの世代が本当に若くて、そちらも皆さん働いていらっしゃるので、例えば、病気になったときに預ける場所が無かったり、保育園が休園になってしまったときに預ける場所が無いなんていうところもあったりというのが現状かなと思うんですけど、本当に両親共に働かなくちゃいけないという皆さんなので、その働く世代のご意見をもうちょっと聞いてもらえたら良いなと思いました。

このアンケートの中で、特に子育て世代にもう一回聞いていただけたら、もうちょっと意見を拾ってもらえるんじゃないかなと思いましたので、そのところを入れていただければなと思います。

今井会長

ありがとうございました。

子育て世代のところの意見というのも大事にしていくと子育てしやすいまちに反映できるというご意見でしたが、事務局の方でそういうアンケートの抽出はできますか。

事務局

今回のアンケートは2,000件に出しておりまして、その比較に関しましては、男女1,000名ずつ、地域が富津地区が1,000人、大佐和、天羽地区が500名ずつ、年齢的には50歳未満に70パーセント、50歳を超える方には30パーセント、年齢構成としては、10歳ごとに区切って均等

割りというような形で、ある程度年代別にアンケートは抽出できております。

今まとめている最中ですので、今後、委員の皆様にもお示しをして、20代の方はどういうことを考えているのか、30代の方はどういうことを考えているのかということを知るような形でお示しして、それを今回のみらい構想の方に反映していきたいと考えております。以上です。

今井会長

ありがとうございました。

アンケートの結果が、テーマとか施策の説明の中で活かしていただけると委員の皆さんの理解が深まるし、これを市民の皆様にお見せするときも、説明責任という部分では、担保できるんじゃないかなと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、会議の方が1時間を超していますので、10分程休憩して、その後、またご意見を伺うという形にしたいと思います。再開までに色んなご意見をまとめておいていただければと思います。

(休憩)

今井会長

それでは、会議を再開したいと思います。

それぞれのテーマ、あるいは、行政等の方針等について、ご意見がありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

吉田委員

この中に当てはまるかわからないですけど、農業の立場から言いますと、私は天羽地区に住んでいます。

山があり、川があり、海があり、とても良いとこだと思っています。

私もここに四十何年も住んでいますので、すごく愛着があるんですけども、昨今、私たちが住んでいる周りを見ても、農業を辞めていく方が結構増えているんです。

なぜかという、人口の減りっていうのももちろんあるんですけど、おじいちゃん、おばあちゃん、父ちゃん、母ちゃん、3ちゃん農業って前に言われていたんですけど、そういう形がずっとそのままきて、今はじいちゃん、ばあちゃんだけで農業をやっている。

そういう方が一人亡くなって、もう農業ができないからって田んぼがそのまま荒れ地になってしまう。田んぼなんだけど草がすごく生えていて、木も生えてきたってところがかなりあります。

そんなところで、これから先この構想が10年ですけど、この10年後になったら、私たちが住むところは、多分人口は半分になるんじゃないかなって思います。

それと同時に空き家が増えてくると思います。

私も同じ部落の中に去年の3月から横須賀の方から、国籍は中国なんですけど、ご夫婦でいらして、近くで民泊をしております。

グランピングっていう今流行りのものなんですけど、そういう形で少しは活気がついてきていると思うんですけど、農業の面から言ったら、どんどん耕作地が荒れているっていうところなんです。

次代を担うっていうのは難しいかもしれないですけど、農業がまるっきりなくなっちゃうのは、これから先どんな時代が来るかわかりませんが、ある程度の自給自足っていうのは必要だと思うんですね。

皆さんが少しでも農業をやっているような環境づくり、今うちの周りは鹿がいます、イノシシはいます、アライグマはいます、ハクビシンはいます、キョンもいます、そんな状態なんですね。

今は柵で全部囲って、それでもサルが来て入られたり、そんな形で農業をやっているわけですけど、そういうところも考えていただきたいなと思いました。

今井会長

ありがとうございました。

富津市って広いですから、地域によってすごい差があって、それぞれのところに合った施策が求められているっていうところを吉田委員がご指摘いただいたと思うんですけど、私の幼稚園では、米を関豊の農家の方から買っているんですけど、実にうまいんです。

そういう意味で言うと、地産地消というところで子どもたちもおいしい富津市のお米を食べることで、富津市の給食も富津市のお米ですよ。

そういうことでも、愛着が沸いてくるのかなって気がします。

ありがとうございました。

それでは、今子育て真っ只中の渡邊委員、小川委員、ご意見いかがでしょうか。

渡邊（文）委員

天羽地区の渡邊です。よろしくお願ひします。

今おっしゃったような内容の中で、子どもの声として、まず、富津市にはたくさん土地があるのに何で家が無いのっていう素朴な質問を受けて、何でだろうねっていう返ししかできない状況なんですけど、そういった意味でも外部から来た人が住みやすい、住むための条件を緩和するとか、そういったことができたなら良いのかなと。

その時言われて、「できない理由は色々あると思うよ。法律とかあると思うので、そこの規制を緩和して住みやすく、移住しやすくするような流れはできるかもね。」っていう話まではいかなかったんですけど、そういったことが言えれば良いなという状況です。

あと、天羽地区で言いますと、鋸山だったり、マザー牧場が目の前で見えたりとか、観光地っていう意識は子どもたちの中にもありまして、そういった意味では、地域に愛着を持って地域に根付いている子たちは育っているのかなと思っています。

これも娘と話をしたんですけど、「天羽地区は天羽地区のことを知っているけれども、富津地区のこと知らないよね。」っていう話になって、「その中学生同士で交流会をやったりとか、そういうのをやったらもっとみんなが富津市のことを知ってくれるのにね。」というような話もありました。

そんなことで、こちらに盛り込むというよりは、そういった子どもの意見として、お話しさせていただきました。以上です。

今井会長

ありがとうございました。
他にいかがでしょうか。

小川委員

大佐和中学校のPTA会長の小川です。
よろしくお願いします。

構想の案の方で、子育てということではありますが、今の富津の方では、いじめとか話が上がってないので良いんですけども、勉強するための図書施設とかはできるとありがたいなと思います。

うちの娘は、君津市の方の図書館へ勉強に行ったりするので、この富津市の中にもそういうのがあれば、すごく良いかなって思うので、そういった子どもたちが、こういう所で勉強したいなっていう環境づくりが一番大切なのかなと思います。

家でするっていうのが一番なんですけど、なかなか家で出来ないっていうのが正直です。

勉強する環境を変えれば、勉強をする。

友達と安全に勉強し合える場所っていうところで、そういうのがあればすごく良いなって思いました。

地域で活性できるといえばお祭りかなと思うんですけど、そういうお祭りがなかなかできないっていうところと、どんどん人が少なくなってきて、お祭りの運営ができなくなっているっていうような現状があるんですけど、なかなかそういうのに若者が参加しないっていうのが多い。自分もなんですけど。

そういった、もっと活性化できるというか、みんなでわいわい、まちやら地域やらで活性できるようなお祭りっていうのが盛り上げられれば色々な意味で人が見に来るとか、それでここ楽しそうだな、ここ住みやすそうだなとか、そういうようなのができるのかなと思って、お祭りの充実ができれば良いのかなと思っておりました。

今井会長

ありがとうございました。

平野副会長は、花火を民間主導で行われたということなんですけど、富津市の文化ですとか、歴史もそうですし、自然海岸のある、自然の大切さみたいなものを売りじゃないけど、このテーマの中に入れ込めないのかなって気はします。

富津市の良さっていうのは、そういう所も1つあるわけだから、そこをテーマにして、色々な施策をするっていうのを非常にポジティブな形にして攻めていけるテーマになるのかなって気はしました。

ありがとうございました。

森田（房）委員

商工会女性部の森田です。

富津市にずっと住み続けたいという方も多んですけど、やがては市外に出ていきたいという方も結構いらっしゃる。

うちの子どももそうですけど、富津市は良いんだけどやっぱり君津市がって言うんですね。

私たちが富津市でがん検診受けてますけど、産科、婦人科が富津市に無いっていうのが大きくて、いざ、集団検診申込日、1日過ぎると色々な検診がなかなか取れない状況であったりするので、そういうがん検診も幅を広く人数を多く受け入れて欲しいですし、あと、産科、婦人科の病院を誘致していただけたらと日々思っています。

ちょっと、体調が悪くなって、婦人科どこ行ったらいいんだろうと、この前思ったんですけど、結局、君津市のファミリーを検索して行ったら、「2時間待ちになりますけど。」と言われたんですけど、でもそこでがん検診を受けて別に異常は無かったんですけど、具合が悪くなった時に、すぐに行ける病院が富津市内に無いっていうのは、若い人も産科、婦人科が無いっていうのは君津市の方に移住したくなる原因の一つだと思いますので、誘致していただけたらと思います。

今井会長

ありがとうございました。

確かに、子育ての前の子どもを産むってところでハードルが高いことになってしまうのかなってところはありますが。

森田（房）委員

あの病院行きましたら、若い人がいっぱい、おなかの大きな人がきますよね。

周りには住宅地がいっぱいで、人がいっぱいいるようなところなので、私が住んでいるのは青木ですから、人口も増えていきますし、買い物っていったらイオンもあれば、カインズもあるので不便は全く無いし、動物もキョンだとかアライグマだとか見たこと無いですけど、本当に幸せな良い場所に住んでいると思いますけど、病院が近くにあればもっともっと人口が増えていくと思います。よろしくお願いします。

今井会長

貴重なご意見ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

橋本委員

先程、今井会長がおっしゃられたことに補足する形になりますけれど、この案の全体像って今住んでいる人の絶対的な評価をどれだけ理想に上げていくか、という案だと思います。これは何かというと、人口を減らさない対策。

もうちょっと欲しいのが、人口を増やす。

これは、相対的な評価を上げるにはどうしたらいいかっていう観点が必要で、例えば神奈川県に住んでいる人が、ここら辺に住まわなきゃいけないなくなって、内房線沿いに住まなきゃいけない。で、富津市を選んでもらう。

会社でここら辺の近くで働かなくちゃいけなくなって、君津市にするか富津市にするか木更津市にするかって迷ったときに富津市を選んでもらう。これがないと、多分人は増えないです。

減らすのを止めるので良いんだったらこれでオッケーなんですけど、やっぱり、増やすっていうのをある程度入れないといけないので、そこは、是非、中身とテーマに組み込んでいただきたいなと思いました。

今井会長

ありがとうございました。

魅力ある富津市をどういう風にアピールしながら人を集めるかっていうことが、人口減少の歯止めをかける一つの大きなテーマになってくると、その辺のところも織り込んでいただくこともお願いしたいと思います。

平野副会長

あれも欲しい、これも欲しいというのは、お聞きすれば当然出る話で、その中でやれることと、やれないことがあるということだと思っておりますが、橋本委員も言っていた人口を増やすというような観点で言うと何かあるのかなという、例えば病院が無いから病院を作ったら増えるのかという、それが必ずかという、私はそうじゃないとっていて、やはり、ストーリーじゃないのかなと。

これが無いから、これを作ったら人が増えるとかじゃなくて、富津市にはこういうものがあるから、こういうライフスタイルがあるんだよってというようなイメージ。

漠然としてでも、例えば、先程、吉田委員もおっしゃっていましたが、天羽にはいっぱい畑も田んぼもあって使っていないよと。

じゃあ、東京から収入はそれ程無くても、農業をやりたいと思って来られる方ってことには、イメージはつくんじゃないかなと。それも非常に安い値段で、この首都圏近郊で可能であるとかですね。

そういった、マイナスだと思ったものが、もしかしたら、プラスになるってことも大いにあるのではないのかなと。そういうことも含めて、ライフスタイルのイメージを提案していけるようなもの。

行政だけでやっていいのかという問題があるかと思うんですけども、それこそ我々のような立場がみんなで考えなきゃいけないと思うんですが、その響く言葉ではないのかなと。例えば、田園都市とか。

今こそ言葉でいいので、夢の持てるものをつくれた方がこういう時代でも心の琴線に響いて、富津市に来てみたいと思わせるような、売り、利点というものをなんとか見つけて。

1,000人呼ぶよりは、もしかしたら10の方が地域のコミュニティにとっては強いということも、往々にしてあり得るんじゃないかなと思いますので、万人受けすることというよりも、そういった売りとそれが誰とマッチングするかというところのストーリーというものが非常にニッチなことだと思っておりますが、それがもしかして、強いし、案外成果が上がるんじゃないかなと、気がいたしました。

今井会長

ありがとうございました。

どこをどういう風に切り込んで、プレゼンテーションをしていくかっていうところは、市だけではなくて民間と協働しながら、色々進めていくという方策がとれるんじゃないかなということを考えるんですけど、そういうものも施策の中でやっていくと、人口減少に歯止めのかかる施策になるのかなというご意見でした。

他にいかがでしょうか。

委員	－特に無し－
今井会長	<p>それでは、他に質疑が無いようですので、議題について終了いたします。</p> <p>5 その他</p>
今井会長	<p>本日の議題について、全て終了しましたが、その他として委員の皆様から何かございますでしょうか。</p> <p>これまでの内容で聞き漏らしたこと、あるいは、確認したいことでも構いませんのでありましたらお願いします。</p>
委員	－特に無し－
今井会長	事務局から何かありますか。
事務局	<p>冒頭でお話しさせていただきましたが、次回の会議につきましては12月を予定させていただいております。</p> <p>またあらためて通知等を出させていただきますので、ご了承願います。</p>
今井会長	<p>それでは、以上を持ちまして、すべての議事を終了といたします。</p> <p>円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>それでは、進行を事務局にお渡しします。</p> <p>6 閉会</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>閉会に当たりまして、小泉副市長からご挨拶申し上げます。</p>
小泉副市長	<p>本日は、委員の皆様におかれましては、ご多用のところ、みらい構想会議にご出席いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>また、今日お示しいたしました富津市みらい構想（素案）について、長時間にわたり多くのご意見をいただきましたことにつきまして、重ねて御礼申し上げます。</p> <p>委員の皆様からいただきましたご意見につきましては、市民の皆様に分かりやすい富津市みらい構想の策定に向け、本日の意見を踏まえまして、事務局として取り組んでまいる所存でございます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、閉会に当たっての挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>

事務局

それでは、以上をもちまして、令和3年度第2回富津市みらい構想会議を閉会いたします。ありがとうございました。

(終了時刻 午後3時15分)

以上